

安政3年 大池村 服部惣助清成棟梁の熟考

掛川市 松ヶ岡 山崎万右衛門様 住宅

大池村 服部惣助清成棟梁は悩んでいた。

安政元年(1854年)に発生した**安政東海地震**で親方様(山崎万右衛門)の御屋敷が倒れてしまった。

急いで新しいお屋敷を建てないといけない。こんな時期に、村の衆みんなが食べていけるようにこのような大仕事を下さった親方様のご期待に答えなければ・・・。

地震では1階柱がそれぞれ違う方向にテンデバラバラに動き、小屋部の柱間長(英語で言うとスパン?)が伸びたり縮んだりして、柱と梁のホゾが抜け、梁の継手は外れ、最終的にそれが倒壊の原因となった。とにかくまず、建物が一体として変形するようにすべきだ。床を固めることを考えるべきであろう。難しい言葉をつかうと床の剛性と言うのだろうか・・・

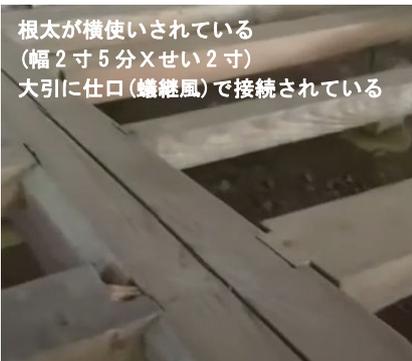


1階床剛性の確保



1階床 修復工事風景

根太が横使いされている
(幅2寸5分×せい2寸)
大引に仕口(蟻継ぎ風)で接続されている



大引に番付がふっである



大引と土台の接続部分はクサビが打ち込まれている

1階床の根太は**横使い**にしよう。このほうが地震時の横方向の力に抵抗できるはずだ。更なる根太は大引きに蟻継ぎ風に接続する。そして根太は「転ばし」でも「半欠き」でもなく「落とし込み」にして、土台も大引も根太も天端をそろえて全体で抵抗が可能になるようにする。未来で言う**床倍率**でいうと、たぶん2倍くらいの倍率は確保できるのではないだろうか。

大引と土台との仕口部分は**楔(クサビ)**で固定する。2階床組と同じようにながらりと固定しないとイケない。土台から大引が抜けられないようにしよう。

神社仏閣のように根がらみ貫で柱脚の固定度を増すという方法もあるが、床高がそれほど高くない場合、この手法は極めて合理的なはずだ。

未来ではRC基礎というものがあり、こんな工夫や苦労はたぶん無意味だと思うのだが・・・。

2024 Autumn No.690

11| 景観整備機構【瓦版】 第108号
標高3776mの世界をついに体験
景観整備機構・まちづくり委員会 大林 勇

12| 編集後記・事務局からのお知らせ

見えない所へ
全てのちからを
All powers to the invisible place



SGM株式会社

～地業工事一式～

◆ 本社 ◆

〒431-1111 浜松市中央区伊左地町2293番地1
TEL 053-482-8255 FAX 053-482-8266

拠点 ■ 静岡支店 ■ 名古屋支店

<https://sgm-group.jp>